



これで最後
ですよ...



ありがとう
本を取ってくれて

詩織に本を渡すたび
昔のことを思い出す…

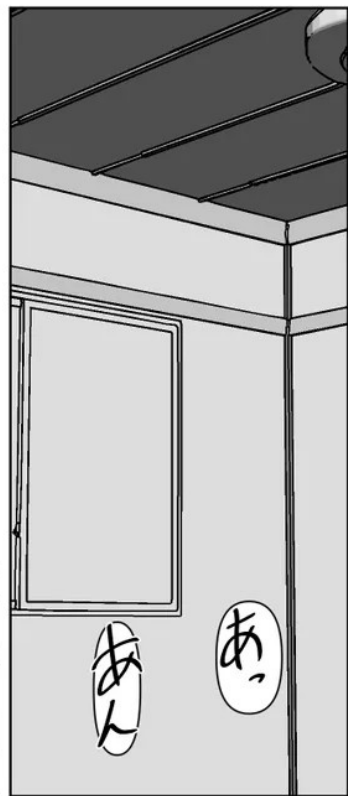
初めて詩織にキスして結ばれた
柔らかい唇、ドキドキして
頭真っ白だった。

ずっと一緒にいた幼馴染なのに
好きだって言うの
めっちゃ怖かった…

付き合ってから
初めての遊園地…

詩織の笑顔、可愛い子と
一緒にいるなんて
夢みたいだった…

この瞬間を
絶対忘れないって誓った…



詩織と結ばれて
ほんと幸せだよ…

私も晴人の
温もりが好き…

俺こんな
幸せでいいのかな？

それは私のセリフ
♥

詩織…

んっ♡

大輝選手
すさまじいタックル！

ボールを持った相手を
一瞬で止めた！
これぞ鉄壁のディフェンス！



なんとというプレーだ！
大輝選手、ボールを奪った！
インターセプト！
これで流れは完全にこちら！

タッチダウン！
大輝選手、決めた！
この試合のヒーローだ！

フ
ア
ア
ア
ア





大輝選手
今日も圧巻の活躍！

この男がいる限り
チームは無敵だ！

あ
あ
あ
あ
あ



ミオ
来てたのか…

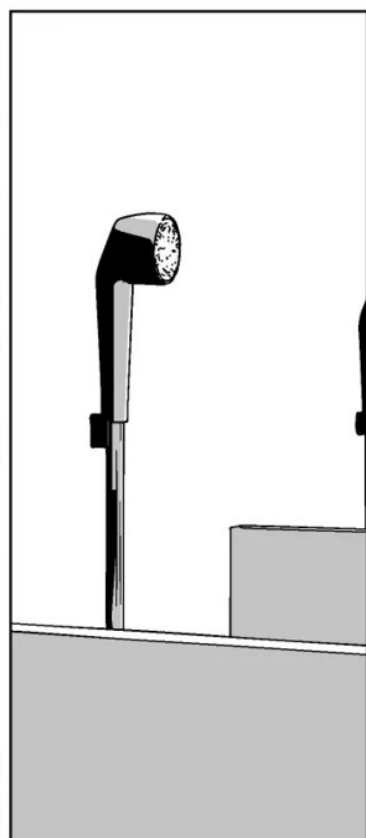
大輝！
今日の試合
めっちゃ
カッコよかった！



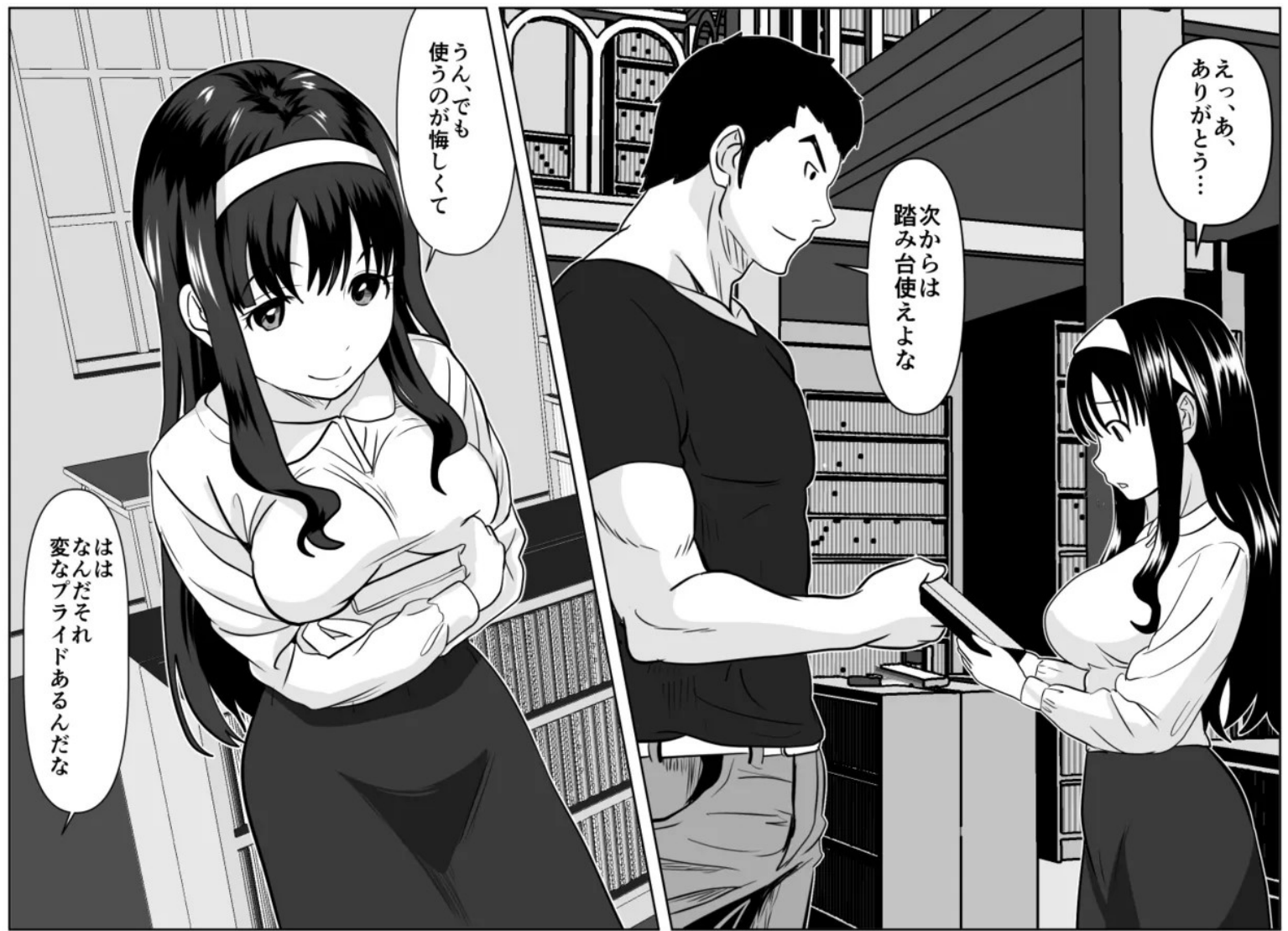
最高の
チームだぜ！

お前
ほんと
怪物だな！

1P
7







この詩：
恋の切なさ
いいですね

んー
よくわからんが
なんか
リアルだと思っ

ふふ
そうですね

ちょっと
気になったんだが

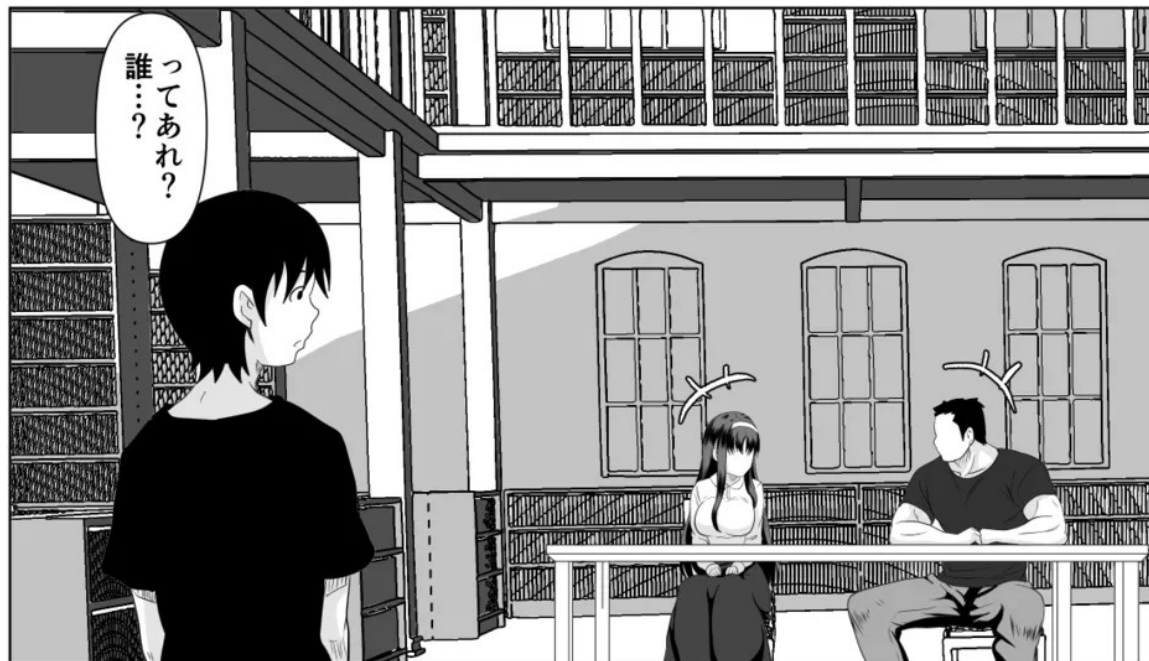
この図書室って
俺たち以外
いないんだな

大学専用アプリの
電子書籍でこの本は
読めるんです

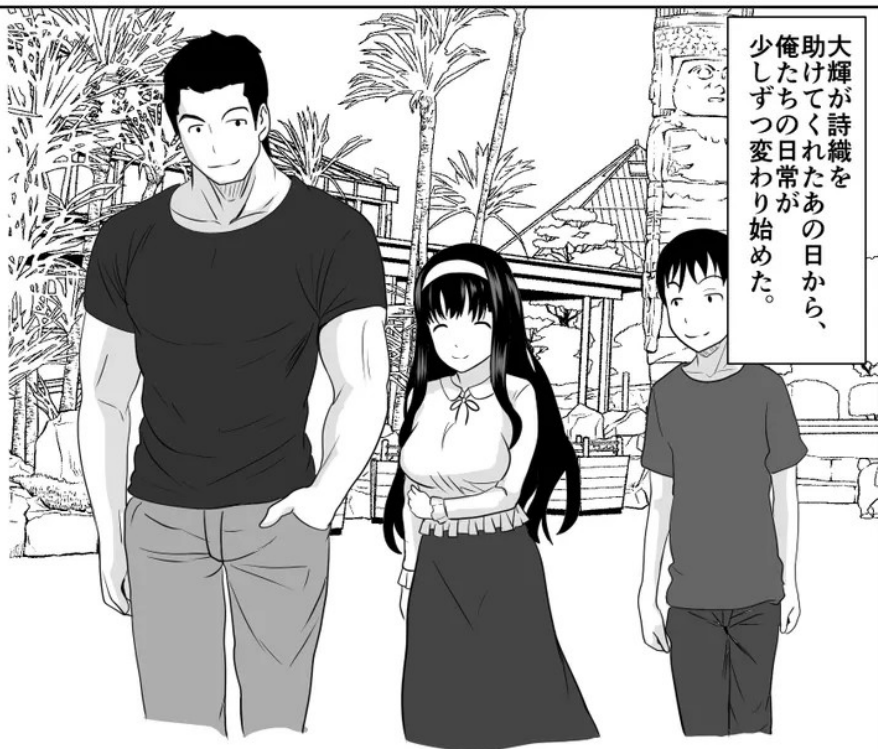
そのお陰で人が来なくて
私の好きな
場所になりました

そう言った
理由があるのか

寂しくあるが
時が止まったかのように
静かでいい場所でもあるな



大輝が詩織を助けてくれたあの日から、俺たちの日常が少しずつ変わり始めた。



引きこもりだった俺たちに、試合のチケットを渡してくれた。それがきっかけだった。



有名人とは思えないほど、優しく、気さくな奴で、俺は、そんな大輝をすっかり信頼していた。



試合を観に行つて、あいつが本当にテレビに出てるような有名人だったことに詩織は驚いていた。



まさか、そんな奴が俺たちと当たり前のようには話してるなんて――



それから何度も会うようになって、いつの間にか俺たち三人は仲良くなっていた。



あいつがいる日常も、悪くないって思ってた。……あの時まで。



夢に向かって
頑張ってる人の方が
ずっと輝いて見えるよ。
……君みたいにな。

ありがとう。
でも俺なんかより

え……？



昨日の試合、観ました！
すごかったよかったです！



私が……？



君は違うよな。
ちゃんと自分の足で
前に進もうとしてる

その姿が、
俺には誰よりも
綺麗で、
まぶしく見えたんだ



世の中さ
持ってるモノとか
肩書きで偉そうにしてる奴
ばっかだけど

そんな……
私なんか
そんな風に
言われるような人じゃ……

俺には君しか見えてない。
最初からずっと

……詩織。
好きだ。

晴人とは別れて
俺と一緒にいてほしい

えっ？ええと……
その……

うそ……
大輝君の様な有名な人が
私みたいな人を
好きだなんて

ごめんなさい……
私、晴人を
裏切ることはいできない

……そっか。
わかったよ。

これからも
友達でいようね

待ってくれ
最後に一つだけ
お願いがある

えっ？

いい



腕、太い……
全然違う……
この力強さ……
包まれる感じ……

……これが
男の……
晴人とは……
何もかもが
違いすぎる……

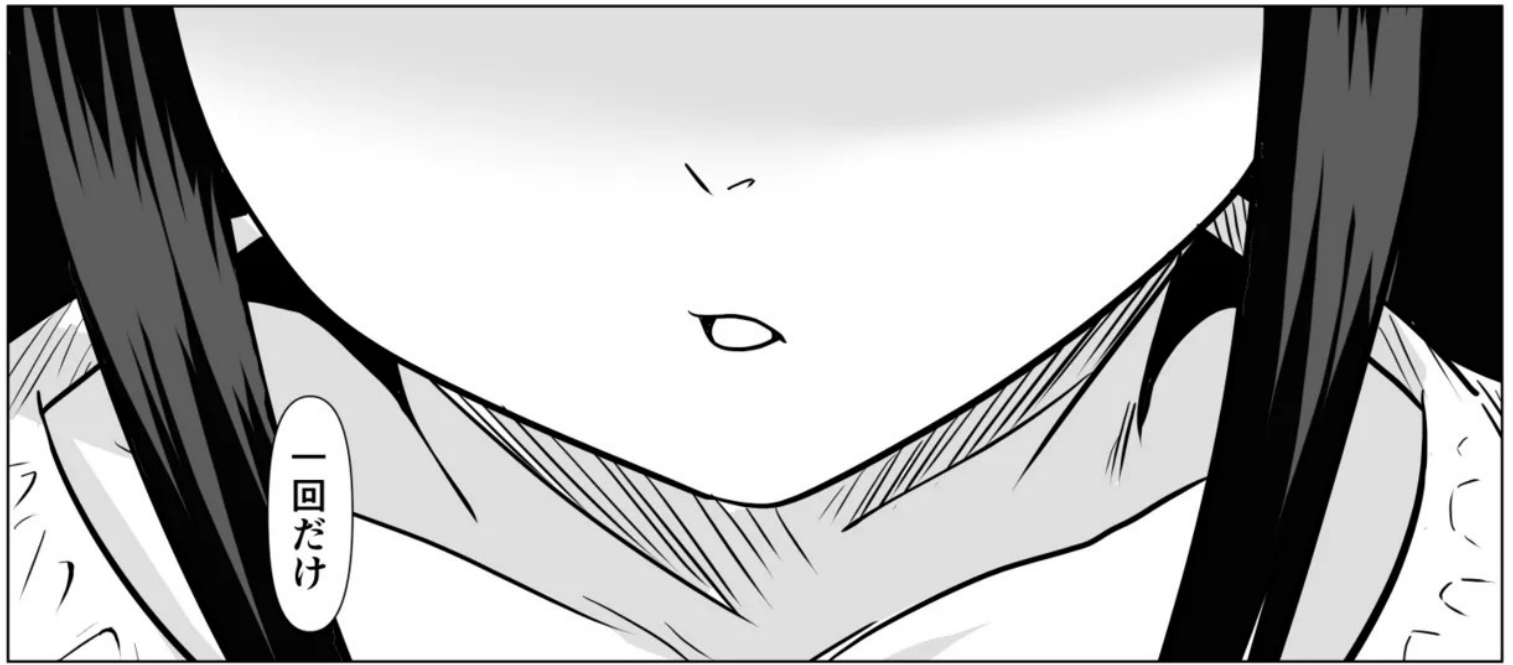
……一度だけでいい。
それで終わりにする。

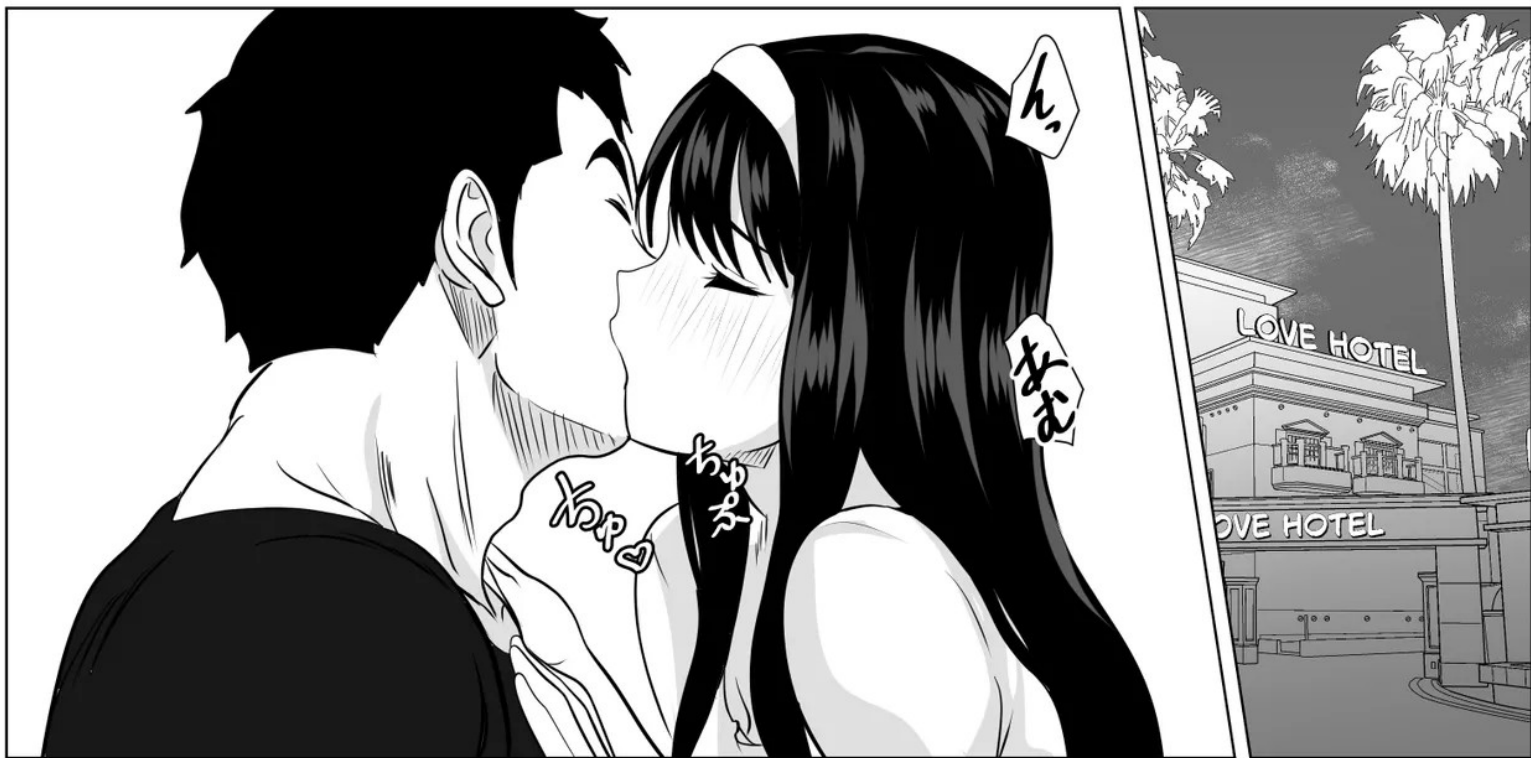
だ、だめ……
だよ……っ

……わかった。
ごめん。

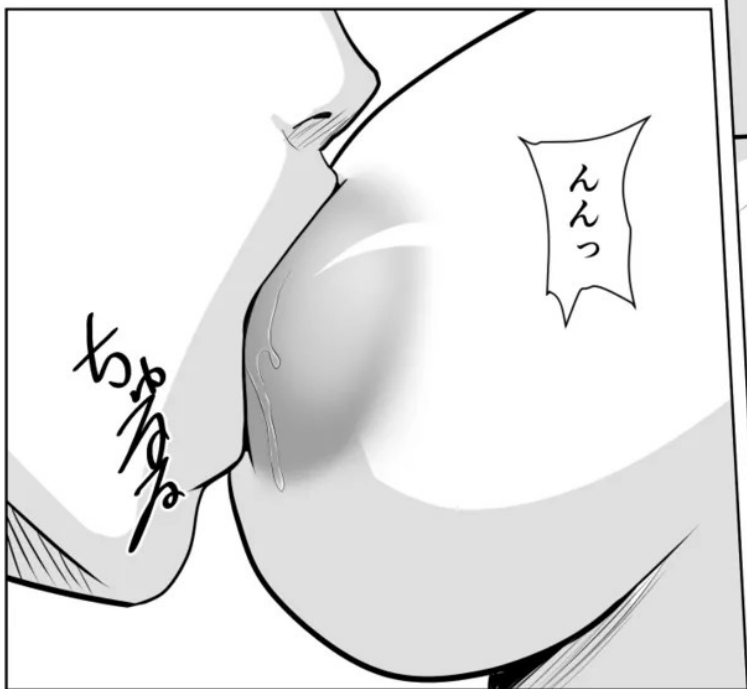
怖がらせるつもりは
なかった。

大輝君……
本当に私の事が
好きなんだ……









ひゃうう！

大輝さんやめて
乳首おかしくなってるの

わい
ん

わん
ん

わん
ん

わん
ん

それじゃあ
こっちなら良いのか？

ぐち

きやううん

おっ凄い
濡れてるね

ん
ん

ふああんっ！
言わないで…！

ん
ん



本当に綺麗で
可愛いよ

こんな私で
興奮するんですか？

ああ
もちろん今まで
一番と言っているほど
すごく興奮してる

じゅわん♡

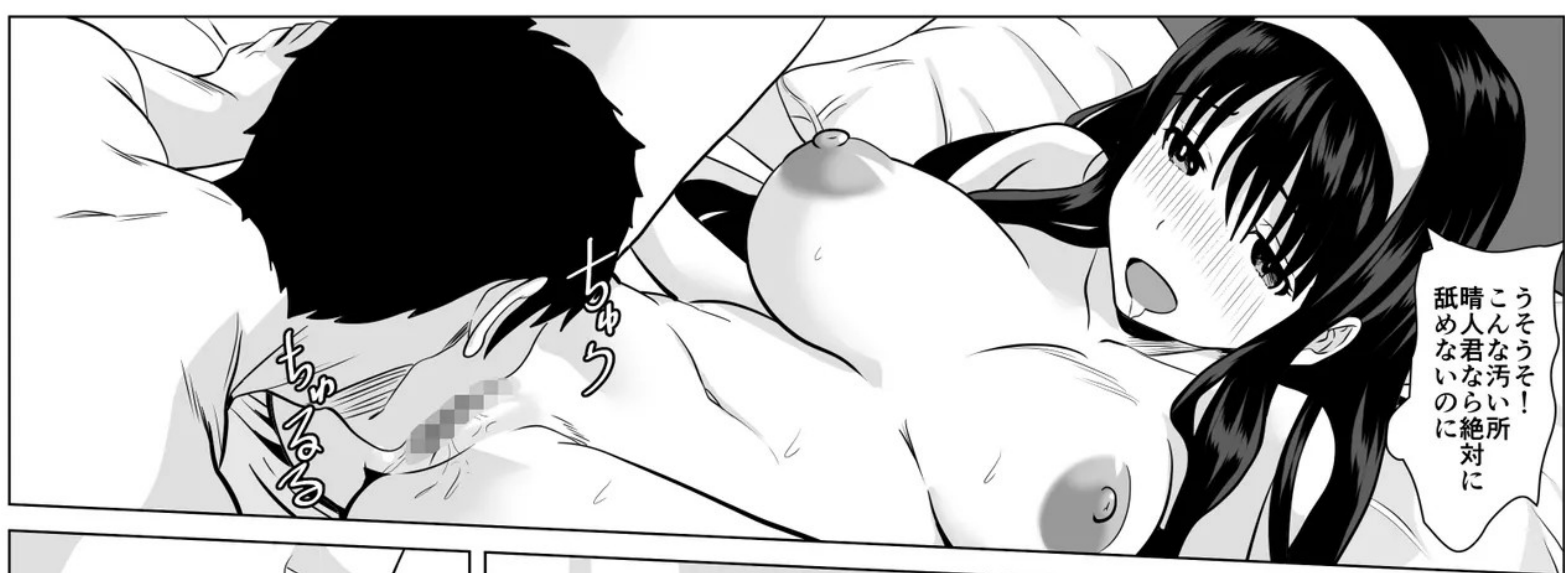
じゅわん♡

じゅわん♡









うそそうそ！
こんな汚い所
暗人君なら絶対
舐めないのに



お前の味を
忘れないからな



綺麗に丁寧な
クリトリスも



大輝さんだめ
またきちゃうの
変なのが来ちゃうからっ

んぎゃん



ひゃ
く

ひゃ
く

ひゃ
く
ら
ん
!!



そうなんだ
晴人よりも俺で
悦んでくれたんだね

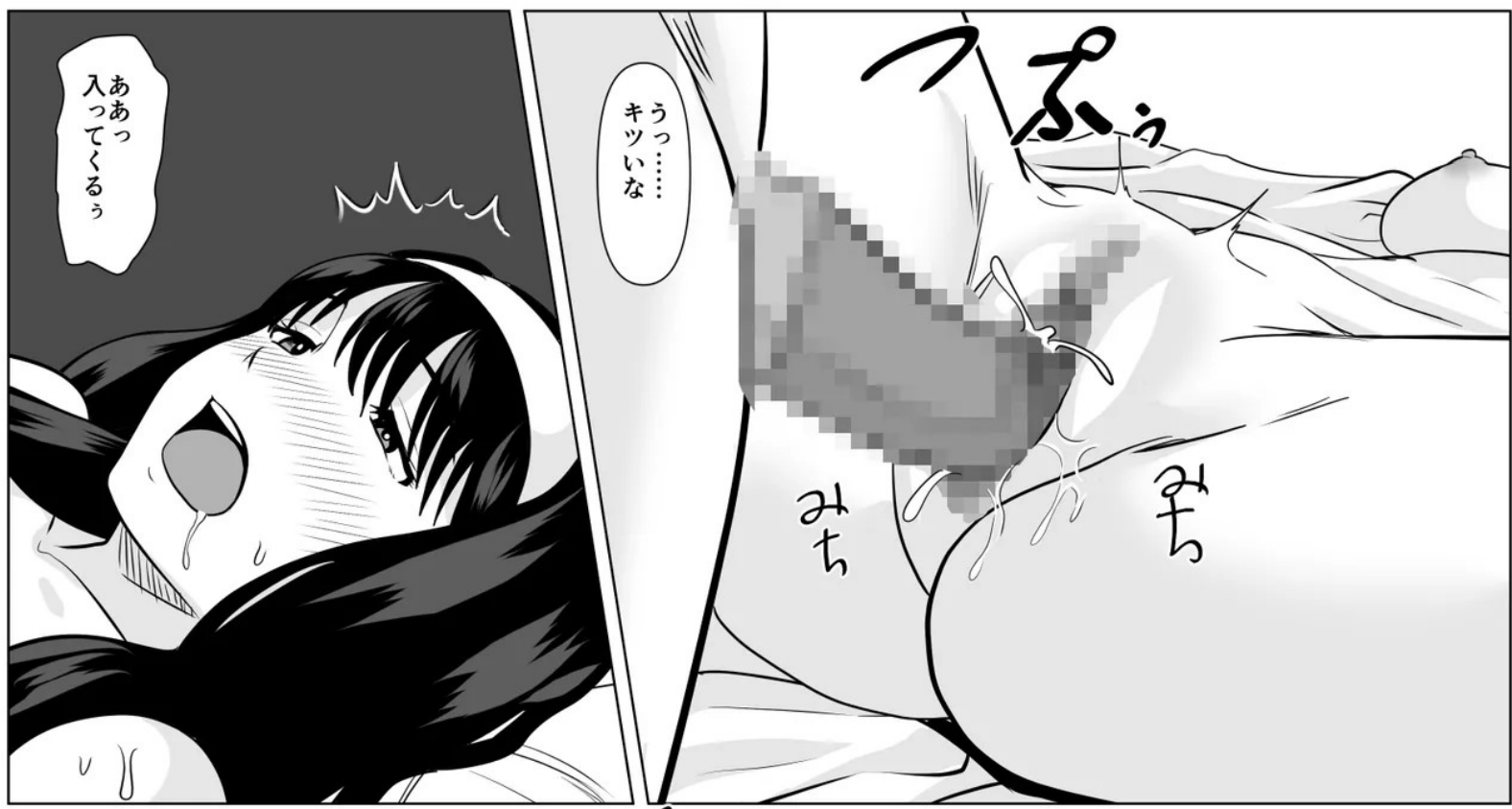
言わないで...

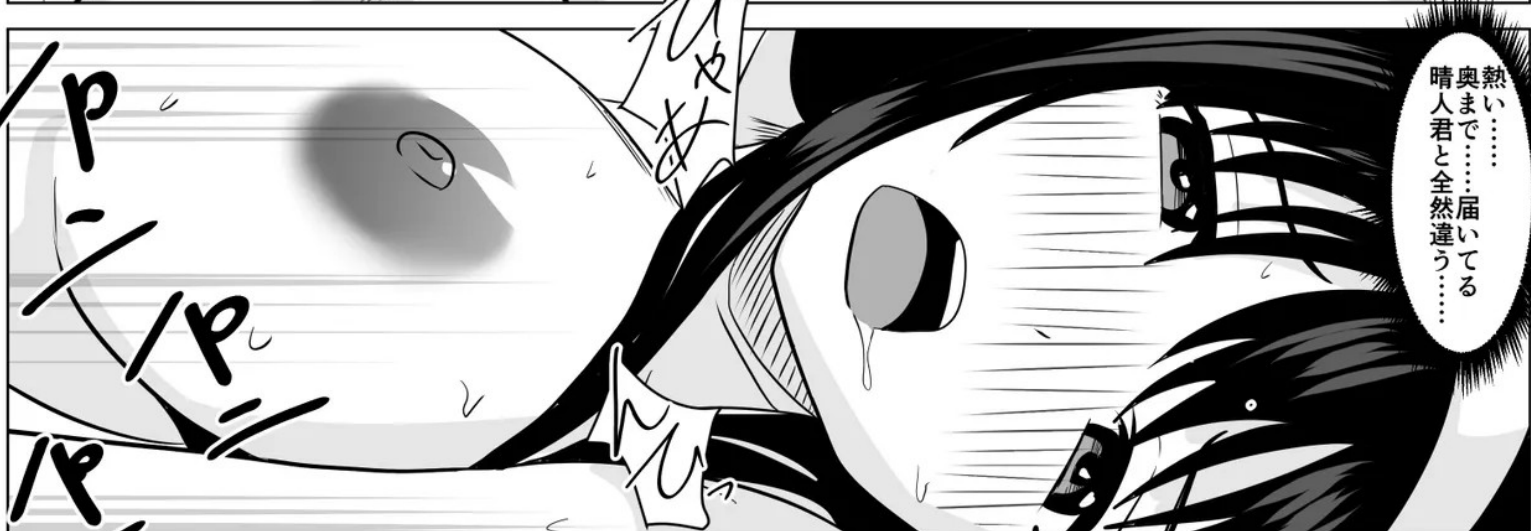
次はこれで
楽しませてもらうね

う、うん...
やさしくしてね

大きい...
晴人君よりも数倍
こんなの入るのかな

1P
カマ



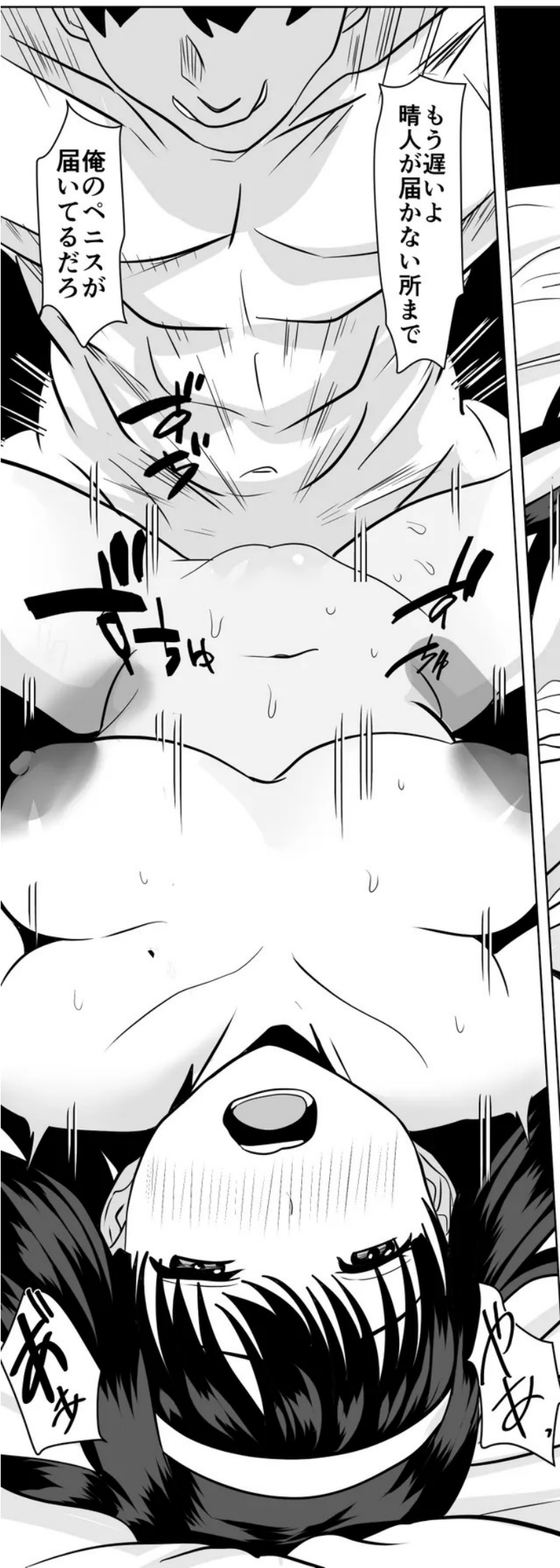


俺も詩織の
おマンコ気持ちいいよ

だっだめ
晴人君にバレちゃう

詩織の壺
俺のチンポの形に
してあげるからな





熱い……
奥まで……届いてる
晴人君と全然違う……



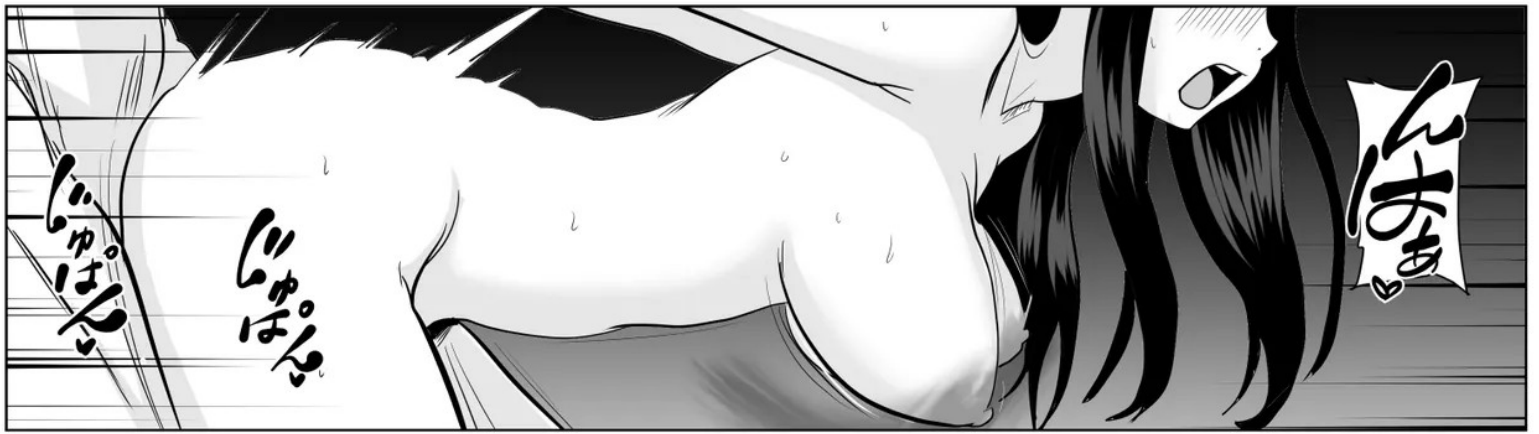
私のおマンコ
大輝君のペニスに
悦んじやってるよ













晴人から
電話かかって
きたけど……？

うそっどうして
こんな時に……んっ

どうしたの
晴人君……

図書室に居なかったから
どこに行ったのかわからな

そうなんだ

ごめんね
いま買い物に行ってる

んぎょお！！

ズ
ニ
ズ
ニ
ズ
ニ

ズ
ニ
ズ
ニ
ズ
ニ





♡イッ♡
よる

あぁちよつと
マッサージ機を
買いに来たんだ

詩織が詳しい
みたいだからね

だから
詩織の声が...



うんっ
一緒にい...

ふうん.....
だったら一緒に
買いに行こうかな?



う、うんそうなの.....
すごく効くよ

あっ





いや、詩織が聞いたことない
下品な声してたから
ビクッして…

そうなのか
初めて聞く声か
ならこのマッサージ器具は
一流品ってことか…

ビクッ

ビクッ





なんだろう
晴人という時より
胸がドキドキして
幸せな感じがする…

……え？

ぎゅ

晴人はゲームに
夢中だし……

一緒に資料室
行かない？



これで
最後だからさ

やろうぜ
セックス

でも……
最後って……

どき

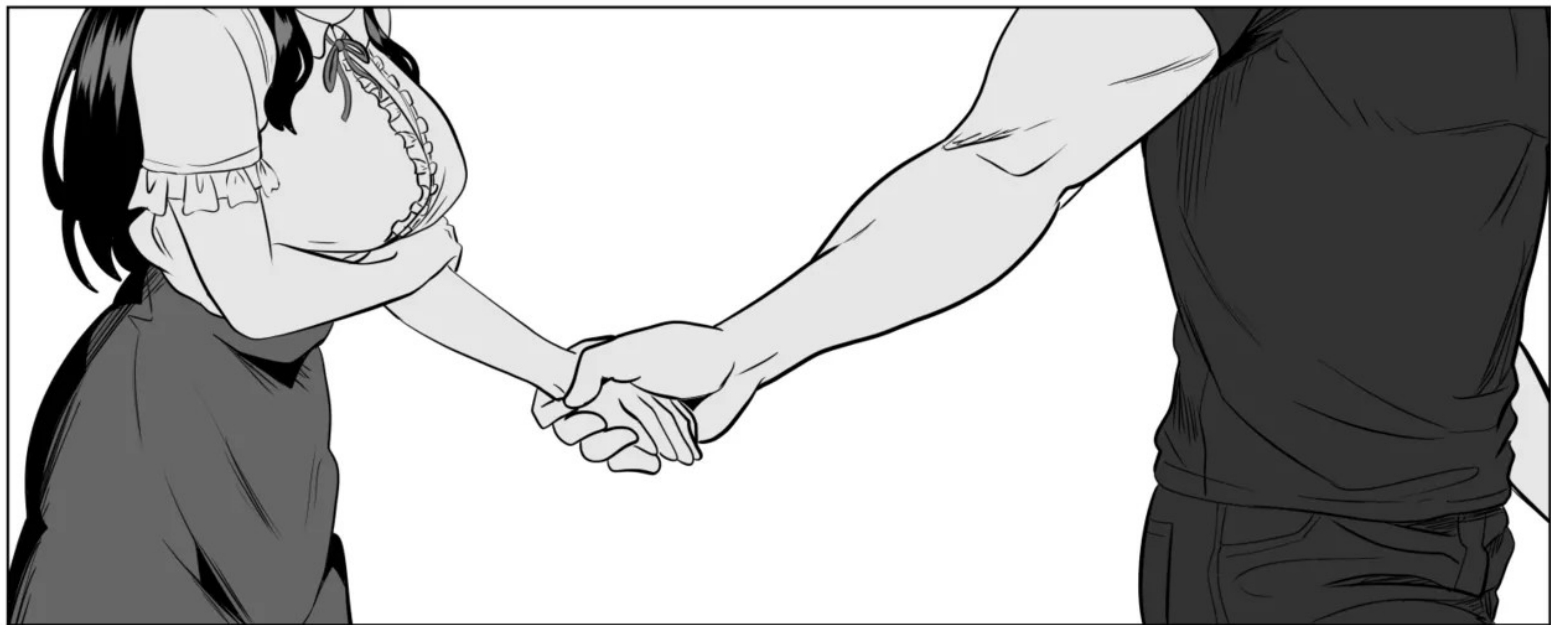
どき



本当に
これで最後ですよ…

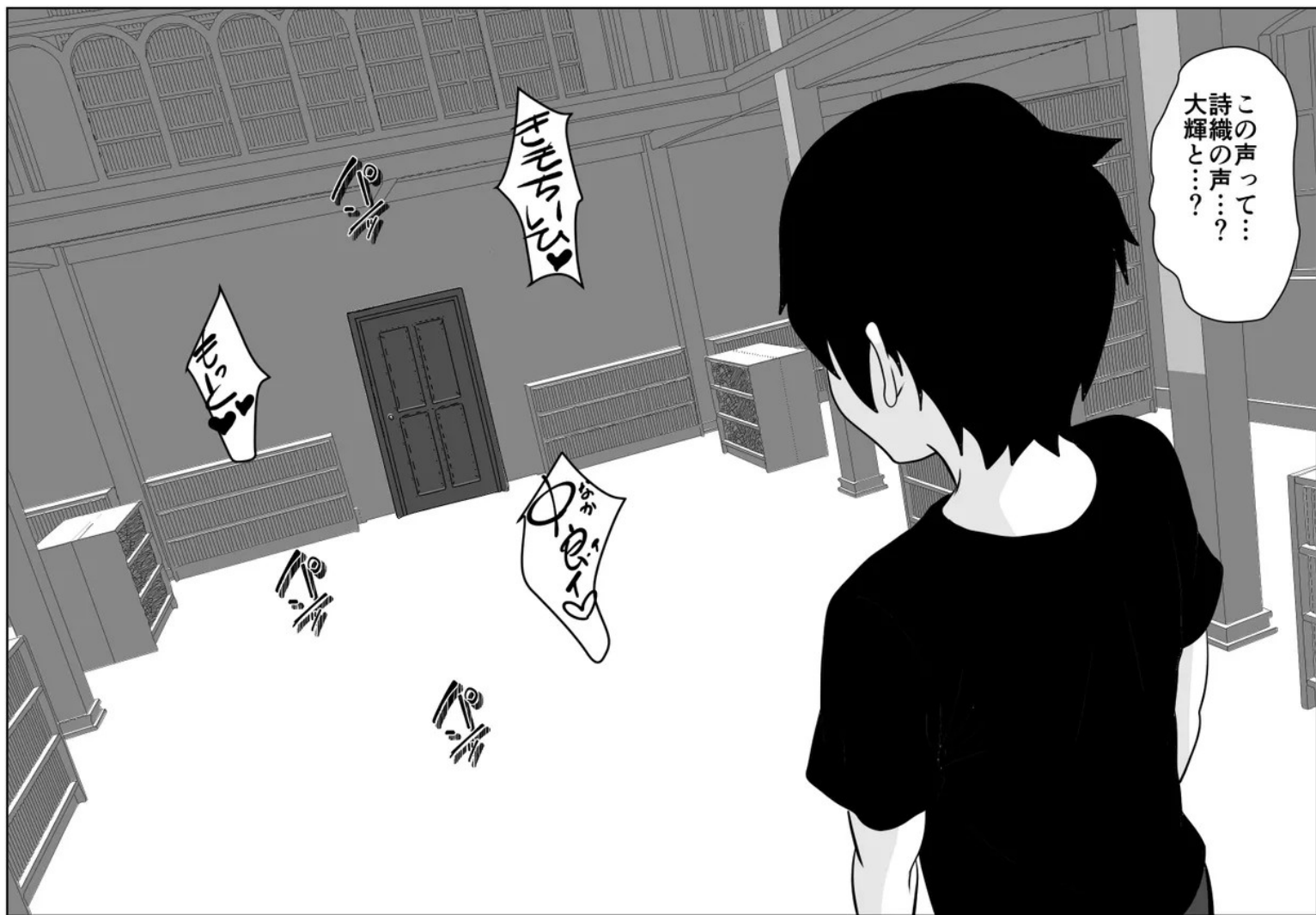
本当に…

どき













詩織：
その姿…まさか
大輝と……

晴人：
ち、違うの！
あの、えっと……！

詩織が花瓶おとしてさ
ちよつと騒ぎに
なつちまつてな！
ハハ、悪いな！

そうそう
水、こぼしちゃって…
服濡れて
着替えてただけなの！
ね、ほんとだよ！

むねあ♡

そ、そうだよな。
はは、ふ、二人がそんな
関係だなんて疑ってごめん…

どき

晴人、ありがとう…
本当に、ごめん…

どき

どき

どき

